



編集・発行

島根県立三刀屋高等学校

雲南会

電話 (0854) 45-2721  
郵便振替口座 01380-3 89688

## 令和4年 雲南会総会 及び 懇親会 は、 中止といたします

現在、新型コロナウイルス感染症第7波の最中、県の対処方針に添い、そして何よりも会員の皆さんの健康・安全に鑑み、今年の上記会合を止むなく中止させていただくことにしました。

3年連続の非開催となり誠に残念ですが、何卒ご賢察賜りますようお願い致します。  
会員の皆さんの益々のご健勝を祈ります。 9月20日 役員一同

### ”百年の夢”



雲南会会長  
佐藤 茂

会員の皆さんにおかれましては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。新型コロナウイルスも次々と新種が現れなかなか抑え切れません。よって今年の総会・懇親会も結局開くことができません。来年こそは……と、期待しましょう。

さて、令和六年百年記念を迎えるに当たり、次頁記事のように、「一〇〇周年記念事業推進委員会」を地元自治体・各外郭団体・学校ともに結集し、八月末日発足することができました。

昨年十一月会長就任時、来たるべき百周年記念事業の基盤となる考え方を示しておりましたが、第一回推進委員会席上ではそれを元にさらに整理し、委員の皆さんの賛同を得たところ。後は学校内の実行委員会と細部に亘ってさらに検討が成されるものと思えます。

ご承知のように、母校三刀屋高校は、県立中学校五番目の学校として、約百年前、ここ雲南の地に呱呱の産声を挙げました。そしてその背景には「雲南の地方民に向学心を振興させ、もって地域文化の向上を期さねばならぬ」と志向して、先駆けた四つの学校には見られない設立運動が県当局・文部省等中

央機関に対し始まりました。その鋭意尽瘁の先頭に立ったのが地元の医師・藤原薫県会議員であり、さらに雲南中學校設立を目指す飯石興学会の松尾清三郎郡会議員、それを支えたのが吉田村の田部長右衛門氏であった(昭和五十一年三月刊『三刀屋高等学校五十年史』)と言います。

そうして大正十一年十一月、こうした先覚者に続く飯石・大原に広がる住民の熱い興望に支えられ、第五〇回通常県会の知事提案によって設置場所を雲南三郡の中央部三刀屋に定め、翌年文部省は開校を大正十三年として認可しました。

明治維新(一八六八年)から昭和二十年の終戦までが七十七年、そしてその終戦からこの令和四年までも丁度七十七年です。ここで仮に前半七十七年を戦争の時代、後のそれを平和の時代と括って考えてよいのかも知れません。

雲南中學校の設立は、明治三十二年の分校設立運動にその端を發しますから、勿論戦争時代の最中です。運動が始まった五年後三十七年には日露戦争が勃発、大正期に入ると内閣が続いて総辞職をする中、大正三年わが国はドイツに宣戦布告、その同年わが国はあの関東大震災に遭遇したのです。

激動する国外の政情と国内の混乱の中にあって、地元先覚者の力強い運動は尚絶えることなく、住民の興望と共に、遂に百年前、この現在地へ母校の前身三刀屋中學校を誕生させたのです。中學校が開校するまでの二十六年間に

及ぶこの艱難辛苦を今こうして机の前で想い馳せてみる時、郷土の先覚者と地元住民が共に見たであろう景色、しかしこれらの人々がけつして捨てることのない夢、そして又、これほどまでに追い続けたものとは一体何だったのか……。われわれがこれから取り組もうとする百年事業は、百年前先覚者と地域住民が本校開校に託した「夢」と「思いの深さ」に応えるものでなくてはならない、と思うのです。

結局この夢はこの地域にとつて何だったのか、営営としてこの百年何を齎したのかを考えましょう。そうしてこの「百年の夢」のつづきを、地域の人々とこれから続く後輩たちと一緒に見続けましょう。

われわれ雲南会は、だからこそ百年の事業のコンセプトを、「歴史をかえりみ新たにいま、社会に立たん健やかに」と校歌の一節をもつて提案しました。

どうか雲南会会員の皆さん、これから、事業の一つ一つを誠実に、丁寧に熟し、力を合わせてこの大仕事を完遂させましょう。

### ご挨拶



校長  
山崎 誠

雲南会の皆様には、益々ご健勝、ご活躍のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動につきましまして、物心両面にわたりご支援、ご協力を賜っておりますことに、心から厚くお礼申し上げます。

令和6年に開校百周年を迎える本校ですが、少子化の中、平成29年の総合学科全学年4学級体制を維持しながら、令和4年3月には141名の卒業生を送り出したところ。総合学科である本校は、他校に先駆けキャリア教育や課題研究・探究学習に取り組んで来ました。地域と連携する教育活動も多く、地元雲南、島根を愛し、地元に貢献する気概を持って、先輩諸氏のように世界的視野に立ち活躍のできる生徒を育てていきたいと考えています。

また、三刀屋高校は地域とともにある学校として、生徒の志を大事にし、主体性を育みながら総合的な人間力(学力・社会力・人間力)の育成を目指しています。昨年度「三刀屋高校ブランドデザイン」を策定し、地域と協働しながら「目指す学校像」、「育てたい生徒像」、特色ある教育課程及び「求める生徒像」等をあきらかにしました。「誠実・剛健 礼儀・規律 勤労・勉勵」という校訓のもと取り組んでいるところです。

昨年度赴任してから、生徒・教職員等で共有する合い言葉として「小さな挑戦、小さな気遣い、大きな志」を定めました。成年年齢が18歳に引き下げられ、若者の自己決定権が尊重されることで、その積極的な社会参加が促進されることになると期待されている今、生徒達が自立した18歳として三高を卒業してほしいという気持ちを込めています。自立した姿を各自がしっかりと考え、模索しながら進んでいく姿を学校・家庭・地域で支援していくことが大事です。合い言葉を宮沢賢治風に言えば、「挑戦していく少しの勇氣をもち、人への思いやりを忘れず、大きな志をもって決まらずに努力を怠らない。そんな三高生に私はなりたい。自立した大人となるために。」となるでしょうか。今後ともご支援よろしくお願いたします。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念して、ご挨拶といたします。

# 三刀屋高等学校 「100周年記念事業推進委員会」発足

第一回委員会は、令和六年度式典予定の関連諸事業への取り組み開始を前に、去る八月二十七日(土)十時から約一時間半、三刀屋交流センターで開催され、発足しました。

会合は雲南会・稲村隆事務局長の司会進行で始まり、冒頭雲南会会長から委員の皆さんに参加に対するお礼の言葉があり、早速協議に入りました。

まず、雲南会・佐藤会長から、資料として6枚のプリントが配布されました。

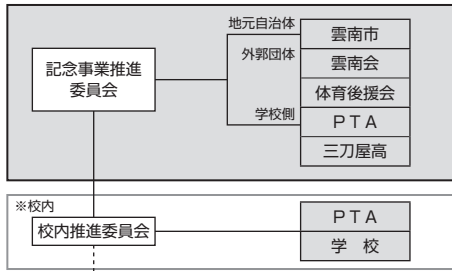
(一)「開校百周年記念事業の方針について」説明があり、

①百周年に相応しい式典・事業とはどんなものか  
②十周年毎の式典とはどう違うか  
③百周年事業の教育的意義・その意味とは一体何か

という観点が大事とし、それを構想する所以は、「本校誕生の背景」にあるとして、

・明治三十二年から始まった誘致運動から開校までの二十六年間のこと  
・地元三人の先覚者の鋭意尽瘁の運動と支援、そして  
・これに続いた地元住民の熱い興望について縷々その説明がありました。

## ◎組織図



## ◎推進委員会【役員一覧】

顧問	山根 成二 県議会議員(兼 副会長) 高橋 雅彦 県議会議員 石飛 厚志 雲南市長 広澤 卓嗣 元県教育長 藤原 孝行 元副知事・県教育長
会長	佐藤 茂 雲南会会長
副会長	山根 成二 体育後援会会長(兼 顧問) 飯石 敏之 PTA会長 山崎 誠 校長
理事	景山 明 雲南市教育局長 長谷川 眞二 雲南会副会長 新 一幸 // 都間 正隆 // (教頭) 本間 達也 // 松原 俊博 体育後援会副会長(前雲南会会長) 鳥谷 紀幸 // 片寄 功 // (雲南会幹事) 梅木 秀昭 // 須山 充彦 PTA副会長 河角 敦夫 // 浅沼 寛和 //
監事	小田川 憲男 雲南会監事 古林 茂 //
委員	金山 久一 雲南会幹事 妹尾 福子 // 片寄 功 // (兼 理事) 飯石 桂子 // 佐藤 文宣 // 梅木 郁夫 // 陶山 浩二 // 松尾 透 // 山田 稔實 体育後援会監事(三刀屋支部長) 奥井 満 // (掛合支部幹事) 古瀬 秀俊 PTA監事 金山 雄児 //
委員(雲南会支部長)	東京支部 天沼 勝 大阪支部 城角 直司 広島支部 西本 克命 鳥取支部 有和 寛之 (副支部長) 松江支部 長谷川 眞二 (雲南会副会長)(兼 理事) 木次支部 櫻井 伸一 斐伊支部 西川 徹 (幹事長) 日登支部 陶山 浩二 (雲南会幹事) 西日登支部 山下 義富 温泉支部 勝部 博充 三刀屋支部 山田 稔實 一宮支部 片寄 邦良 銅山支部 石飛 啓 飯石支部 高尾 肇 中野支部 名原 哲男 掛合支部 落部 照治 吉田支部 藤原 悟 頓原支部 景山 登美男 ※名古屋、出雲、大東、加茂、仁多、石見…支部なし
事務局(雲南会)	局長 稲村 隆 次長 周藤 雅 局長 舟越 奈緒美 // 阿部 一人 // 稲田 大輝 // 舟木 美代子 // 梅木 啓之 // 本間 達也

・その他広告等  
が2頁に亘る具体的な資料をもって提案されました。

(二)当推進委員会規約では、委員会の中に役員会・監査会を置くこと、監事を2名に、当初予定していた監事4名を委員に加えることとし、ここで協議事項(一)を合わせ一括承認を得ました。

協議では(四)推進委員会会長及び役員委員の選任へと進み、会長に雲南会会長を選出し、その他の役員・委員は原案通り承認されました。

続いて(五)記念事業予算案(事務長)について審議され、委員の意見により一部変更した上でこれも承認、

・その後、趣意書案・雲南会寄付金・式典・記念誌等々について学校側の説明がありました。

最後の「意見交換」において学校側から、「式典開催日」について別案が示され、推進委員会会長からの引き続き学校側と協議の上結論を得たい、との提案が成され、承認されました。

雲南会では今、長年変わらなかつた組織体制や運営の仕方について、百周年を前にもう一度見直し、現下の諸情勢に対応した組織運営にすべく、検討を始めたところです。

取り組みは、昨年十一月末本部役員と支部代表者の皆さんの合同会に趣旨を提案、今年三月下旬検討グループを編成してスタートしました。

一部の役員の方からは、百周年という大事業を前に今取り組みのほうかという懸念も寄せられましたが、この大事業を梃子に今刷新を図らなければそれは今後また長い間手つかずの状態になる——との思いから出発したところです。

六月から十月に掛け、下記グループ全て既に二回検討会を開催、グループ別の協議(問題点)を整理、議論を詰めてきました。山の登攀で言えば、七合目という所でしょうか、これを年度内に仕上げ、明年度当初から各関係検討グループ間の意見交換・調整に入る予定です。

五年度末には雲南会が「繋がり合える楽しさ」を少しでも実感できるように組織体制の全面的見直しと運営方法の抜本的改善策を具体的に提案します。

## 雲南会組織体制並びに運営刷新検討会 第二回会合終了、愈々最終回へ

GL: 会の司会・進行  
○: 助言者 □: オプザーバー

### 1【組織体制検討グループ】

〈課題〉組織関係整理、内部組織の見直し、付則3・2項等  
GL 梅木郁夫(幹事)

藤原 悟(吉田支部長)

落部照治(掛合支部長)

片寄 功(幹事)

飯石桂子(幹事)

佐藤文宣(幹事)

○山田稔實(三刀屋支部長)

□佐藤 茂

### 2【支部・期別検討グループ】

〈課題〉改廃支部支援策、役員の固定化・活動の停滞問題、期別代表会  
GL 佐藤 茂

多田納力(三刀屋支部幹事)

石飛 啓(鍋山支部長)

景山登美男(頓原支部長)

西川 徹(斐伊支部幹事)

○櫻井伸一(木次支部長)

□都間正隆(副会長)

### 3【会計処理検討グループ】

〈課題〉会計全体の精査、周年寄付金、総会経費、会計監査  
GL 安部栄司(木次支部幹事)

片寄邦良(一宮支部長)

陶山浩二(幹事、日登支部長)

松尾 透(幹事)

○小田川憲男(監事)

□長谷川眞二(副会長)、佐藤 茂

### 4【広報の充実検討グループ】

〈課題〉広報の現状、会報、他の媒体、「繋がる雲南会」創出  
GL □ 佐藤 茂

妹尾福子(幹事)

須山哲好(一宮支部幹事)

奥井 満(掛合支部幹事)

古林 茂(監事)

藤原重信(飯石支部幹事)

○室下義富(西日登支部長)

# 周年記念に憶う



## 卒業 40 周年

### われらの三高

#### ここにありと

昭和57年卒業 高34期

小田川 徹哉

遠い昔、「還暦」という言葉を聞いて、いつか本当に自分も還暦を迎える日がくるのかと、はるか先のこのように思っていました。それが今や還暦は目前で、三刀屋高校を卒業してから40年の月日が経っています。

10年前、高校卒業30周年を記念して同窓会を行い、40周年で再会しようという約束をしました。しかし、コロナ禍のため、今年は卒業40周年の同窓会は現在のところ実施できていません。高校で同じ時間を過ごした、かけがえのない同級生と久しぶりの再会がかなわないことは、とても残念です。

今の高校生は入学の時からコロナ禍の中で、様々な制限や不安を抱えての高校生活を過ごしていると思うと、胸が痛みます。自分たちは思う存分活動ができた、感染の不安もなく友達と日々の学校生活を楽しんできたことが、ありがたくさえ思えます。

そんな中、母校の三刀屋高校のことがニュースで取り上げられると、自然と見入ってしまいます。そして、同級生と会った時の大きな話題となります。また、高校総体やコンクールなどがあった時には、新聞を広げ、三刀屋高校の結果を探すがいます。後輩たちの活躍をとて嬉しく、そして誇らしく思っています。

学びの場としても、私たちの時代になかった「総合学科」が新設されました。普通科をベースにした県内唯一の

進学型「総合学科」は、多様な科目選択や探究学習など、生徒一人一人を大切に、時代のニーズに合った魅力ある学校へと進化していると感じています。

校歌の一節に「われらの三高ここにありと ひとしくともに誇るべし」とあるのを印象深く覚えています。三刀屋高校の卒業生は、このフレーズの通り、遠く離れた地においても、卒業して何年経っていても、母校である三高のことを思い出し、自分が三高の卒業生であること、後輩達が一生懸命に努力し、活躍していることを常に誇りに思っているのではないのでしょうか。



## 卒業 30 周年

### 一番の思い出 — 体育祭 —

平成4年卒業 高44期

片寄 博幸

2020年、オリンピックキイヤーの1月、特に気にしていなかった新たな流行り病が発生しているとの小さなニュースが、ここまで大きな影響を及ぼすとは誰しも想像していなかったと思います。

私たち、平成4年卒の世代についても、本来は2021年が卒業30周年の同窓会を行う年でしたが、新型コロナ

彼らも行き、

我らも行き、

今君らも行くと、この道や、

遂に遠かなるかな

土岐善磨・歌人

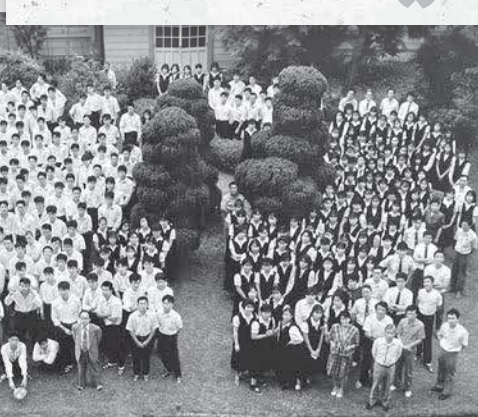
(一八八五—一九八〇)

ウィルスの影響を受け、開催可否の検討会も行うことなく、同窓会の実施ができなかったことに対し、楽しみにされていた方々には大変申し訳なく思います。

卒業から30年も経ちますと、当時の記憶が薄れてきますが、一番の思い出といえば体育祭という方が多いと思います。各クラスの威信をかけ、一致団結してデコレーションや応援合戦に向け、朝早くから集まって練習したり、遅くまで残って準備されたことと思います。また、ここでは詳しく書きませんが、夜遅くまで〇〇〇〇したことは強烈な思い出として残っています。

前回の卒業20周年の同窓会から10年の歳月が経過し、多くの方とはお会いできていませんが、皆さまそれぞれ各方面でご活躍のことと思います。次回卒業40周年となると、皆さんは間違いなくアラ還世代となります。気持ちはまだまだ若いつもりですが、健康には年を重ねていきますので、健康には留意され、次回の同窓会では元気にお会いできることを楽しみに過ごしていただきたいと思います。

窓生全体が集まる機会はありませんでしたが、地元で就職し生活している友人達とは時々スポーツを楽しむこともあり、県外に移住した友人達が帰省したときは集まってお互いの近況報告や、学生時代の話で盛り上がることもあります。近年は、子ども同士が同じ保育所や小学校に通ったり、また、同じスポーツ少年団に所属し、保護者として再会することも増えてきました。



卒業アルバムより、H4 卒業生集合写真

## 卒業 20 周年

### コロナ禍、 再会を楽しみに

平成14年卒業 高54期

飯石 陽一

今年、三刀屋高校を卒業し二十周年を迎える年となりました。その間、同

新型コロナウイルスが流行しはじめ、残念な思いの中計画を中断しました。我々が学生のときには想像もしていなかった状況であり、同窓会などの特別な行事どころか日常生活にも大きな影響を与えています。子どもたちが学校へ行くこともできない日々や、頑張ってきた部活動の集大成を披露する場所がなくなったりもありました。それでもみんなが前を向いて進んできたことで、少しずつですが増え、これまでの日常に近づきつつあることを感じます。新型コロナウイルスは依然として消え去る様子はなく油断できない状況は続いています。いつかまた、みんなと笑顔で再会し、会えない今の時間のことや笑って語り合える日が来ることを願っています。

卒業から二十年。それぞれが家庭や仕事で忙しくも充実した日々を送る中で、間もなく二度目の成人式を迎えることとなります。学生の頃とは見た目も立場も違い、また、一人ひとりが大切なものを背負いながら日々を過ごしていることと、楽しいことばかりではなく、躓き、悩むこともありますが、みんなも同じように頑張っていると思えることは今でも大きな力を与えてくれます。同じ三刀屋高校で共に笑い、悩み、汗を流した同窓生の存在は、どれだけ時間が流れても大切なものであり続けています。

同窓生のみならず再会し、語り合える日を楽しみにしています。

# 支部通信

## 東京支部

### 最近の支部活動

支部長 天沼 勝

〔普通27期 昭和50年卒〕

令和4年7月31日より、全国高等学校総合文化祭東京大会が開催され、三刀屋高校演劇部が中国ブロック代表として立派に演劇を披露しました。内容は「永井隆物語」素晴らしい演劇で、故郷が生んだ英雄を誇りに思えると共に、最後は涙が出るほど感動しました。

今年の全国大会に際し新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、島根から応援に来られない母校の関係者の悔しい思いもあつたでしょう。少しでも応援の足しになればと雲南会東京支部は支部会員に連絡をとり、有志で応援に駆け付けました。

コロナ禍の今こんな些細な事ですが現在支部でできる最大の支部活動となっております。

今年の6月頃は大方コロナも落ち着いて、そろそろ支部の有志が集まって飲み会でも企画しようと、幹事数名が久しぶりに会合をしました。その時には来月あたりみんなに声かけて、2年ぶりに集まろうと計画していた最中でした。そんな折、再び新型コロナウイルス感染症第七波が流行し、集まりの連絡もできなくなっていました。

毎年母校から会長や校長先生の出席を頂き40名以上の会員で開催していた東京支部の総会は、もう2年以上中止になっていきます。

そして一番悔しいのが、ほぼ毎月集まって近況や家族の事、ふるさとの様子を楽しく飲んで語った有志の会も開催できなくなつたことです。

数名、十数名の同期や有志が集まる

飲み会は、雲南会東京支部を支える骨格です。それがなかなか開催できないのが一番残念です。今は少しでも仲間との絆を保つため、SNSを使ってこまめに近況を伝え合っています。

また再会できて、早く皆様の笑顔が見られるのを願っています。



2019.11 東京支部総会

## 温泉支部

### 温泉支部の取り組み

支部長 勝 部 博 充

〔第42期(普通科第22期)〕

令和4年度の温泉支部は、会員数64名(男性41名、女性23名)をもって、17名の役員体制により、会員の笑顔あふれる有意義な活動を、目指して取り組みを開始した。

本年度もコロナ禍でのスタートとなつたが、年度当初の4月9日に第1回四役会(支部長、副支部長、幹事長、副幹事長で構成)をもち、第1回役員会の開催に向けた対応として、令和3年度の事業実施状況及び予算執行状

況、令和4年度事業計画(案)及び予算(案)等について協議を行なった。それを受け、4月23日に第1回役員会を開催し、四役会での協議内容について審議を行なうとともに、新型コロナウイルスの感染状況を勘案しつつ、例年どおり通常総会を開催する方向で所要の準備を進めることとした。

そうした対応を経て、6月12日(日)午後3時から温泉交流センターを会場に、来賓として三刀屋高校から山崎誠校長先生、雲南会本部から稲村隆事務局長をお迎えし、会員20名の出席をもって予定どおり通常総会を開催した。

総会は前年に続き今年も20代の会員(2名)の出席があり、融和と期待が膨らむものとなった。思うに当温泉支部も人口減少と少子高齢化が進行し若者が少なくなつてきている中で、若者の拠点ともいえる母校三刀屋高校の存在は、地域の活力に大きな影響を与えるものであり、学力向上や地域的特色による魅力づくりを一層推し進め、更に発展継続していくよう地域と行政が連携した支援の大切さを改めて実感している。

総会終了後は、折しも島根県が飲食店利用の人数と時間の制限を開催3日前の9日に全面解除したこともあって、抵抗感が和らいだ中で、10名の少人数ではあつたものの祝賀懇親会を賑やかに実施することが出来た。

そのほか、年度内の事業としては11月にボーリング大会を開催して交流と親睦を図り、12月には会報第5号を発行して



令和3年11月28日(日) 令和3年度親睦ボーリング大会 出雲センターホール

会員に情報を提供し、また、そうした節目節目には四役会及び役員会をもつ

## 各種寄金の紹介

雲南会会員の皆様におかれましては、日頃から本会活動へのご協力を賜り、衷心より厚くお礼申し上げます。

ところで、時々、雲南会への寄付はどのような送金・寄付の仕方があり、それがどのように支出し用途はどうなっているのか——というご質問があります。

現在雲南会関係のこうした寄付金は二種類あります。そして、体育後援会関係が一種類、計三種類の送金方法があり、そうした浄財が雲南会の活動経費、在校生の教育活動に役立てられています。まず、その三種類を改めて紹介します。

### ◎卒業周年寄付金

この周年寄付金は「存じのように、卒業20年目・30年目・40年目に当たる年、例えば学年同窓会を開催された時、代表・幹事等の方々から呼び掛けによって、毎年にそれぞれ十五万円をご寄付いただいている寄付金です。

### ▼雲南会活動協賛金

この協賛金は、雲南会活動活性化のため設置されたもので比較的新しく、恐らくまだ十年に満たないかも知れません。

これはその名称が示すように、雲南会活動全般に活用されています。

寄付の方法は郵便振り込みとなっており、本会報題字の下の郵便振替口座番号で受け付けています。

尚、この協賛金にご協力頂いた方々は、会報送付の際の封筒に同封された一覧表によってそのお名前を掲載しています。

### ▼体育後援会寄付金

一方この寄付金は、野球部甲子園出場の際(昭和五十四年)に設立された「体育後援会」で、当初の野球部支援からやがて高校部活動全体への支援に広げられた寄付です。

三刀屋中学以来、単に同窓会と称されていたのが、「雲南会」として出されたのが昭和四十九年ですから、雲南会発足後僅か五年にして設置されました。

この寄付は、三刀屋・掛合・木次の三支部に募金目標額が示され、各支部の役員さん方・集金担当の方の戸別訪問等のご苦労によって集められています。また雲南会のみならず、この趣旨に賛同する方々のご支援もあります。

こうした寄付金を基に、雲南会からの寄付金、PTA会計からの繰入金を加え、長年に亘って生徒の部活動を支援してきました。

ただ、課題もあるかとは思いますが。例えばその一つとして、協賛金はお名前が公表されているが、後援会寄付金はそれが為されていないことなどあるうかと思えます。雲南会・体育後援会で今後協議を深め、一層の充実を図っていきたく考えますので、何卒変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い致します。

※寄付の方法は以上の三種ですが、この度

### ◎「百周年募金」が始まります。期間は、

令和五年一月一日、

六年十二月三十一日迄

同封の書類でご確認頂き、ご協力の程何卒宜しくお願い致します。



て対応を協議しながら、当年度の取組みを終える予定としている。



今回の探訪は、昭和40・3卒、書家として今も尚中央で活躍の那須隆吉氏です。氏は四十年前、本校六十周年の際には『追録・三刀屋高等学校十年史』の背表紙にご揮毫いただき、又現記念館「蒼雲館」には、その折ご寄贈頂いた扁額が今も掲額されています。

やるなら、これまでもこれからもこのような人はいないからと、西川寧先生を御紹介下さいました。書家として最初の文化勲章受章者でした。本格的に書道をやった教員が足りないのが鳥根に帰るようにと内定がありました。松丸先生の御意見によりとりやめてこの道に入ったわけ

# 私が歩んだ五十年

書家・篆刻家 高十七期 那須隆吉 (大 卿)

章の時は、農水、経産、法務各省合わせて約250人を代表して、陛下に御礼言上奉り、直近に龍顔を拝し、たとうべきものなき光栄に浴し、感激の極みでした。

白楽天ではないが「年光水より急なり」と感ずる昨今となりました。雲南会報復刊にあたり、微々たる私ごとき者の一文を加えさせて頂くことは肝銘の至りですが、もともと私などの来し方に江湖の人に読んで頂くに値する話柄などあるはずもなく、回想がもたらすときめきに至ってはさらさらありません。が、「人と人との出会い」は、実に奇なるものと思えます。少なくとも私の場合は、このことで細やかな人生が決定づけられたような気がします。五十年前といえは昭和四十七年。駒大を卒業して三年、篆刻の師松丸東魚先生(当時篆刻界第一人者)宅へ通っていた頃です。私が上京する前に姉が交通事故に遭って入院した京橋病院で先生の奥様と同室であったことが御縁の始まりでした。書道を



## 母校だより

### (1) 進路概況

#### 令和3年度合格数(延べ数)

	国公立大学	私立大学	公立短大	私立短大	看護・医療専門	各種専門	大学校等	民間就職	公務員	合計
現役	23	145	4	3	31	21	3	13	4	247

#### 主な合格校

国公立大学	筑波大、宇都宮大、滋賀大、鳥取大、鳥根大、広島大、香川大、神戸市外国語大、和歌山県立医大、公立鳥取環境大、鳥根県立大、尾道市立大、県立広島大、福山市立大
私立大学	国際医療福祉大、城西大、獨協大、文教大、神田外語大、青山学院大、順天堂大、女子美大、創価大、拓殖大、法政大、大谷大、京都産業大、京都女子大、京都芸術大、同志社大、佛教大、龍谷大、京都文教大、関西外語大、近畿大、帝塚山学院大、羽衣国際大、甲南大、神戸芸術工大、神戸女子大、岡山商科大、岡山理科大、川崎医療福祉大、吉備国際大、くらしき作陽大、就実大、美作大、環太平洋大、広島経済大、広島工業大、広島修道大、広島文教大、福山大、福山平成大、安田女子大、広島国際大、日赤広島看護大、九州産業大、福岡看護大
公私立短大	桐朋学園芸術短大、大阪健康福祉短大、岡山短大
看護・医療・福祉系専門	京都栄養医療専門、大阪健康福祉専門、YMCA 米子医療福祉専門、鳥根県歯科技術専門、松江総合医療専門、鳥根リハビリテーション学院、出雲医療看護専門、トリニティカレッジ出雲医療福祉、浜田医療センター附属看護、鳥根県立石見高等看護学院、津山中央看護専門
専門学校ほか	京都美容専門、大阪工業技術専門、穴吹デザイン専門、松江栄養調理製菓専門、松江総合ビジネスカレッジ、出雲コアカレッジ、広島外国語専門、広島工業大学専門、広島美容専門、鳥根職業能力開発短大、鳥根県立東部技術校

### (2) 就職概況

#### 求人状況

年度	R3
県内求人	174
県外求人	524
計	698

#### 就職内定先

県内	KANAME 工業 株式会社
	S-FIELD
	株式会社 出雲村田製作所
	株式会社 後藤建設
	株式会社 ミュゼプラチナム
	山陰パナソニック 株式会社
県外	日本郵便株式会社 中国支社
	ホシザキ株式会社 鳥根工場

株式会社 緑の村
株式会社 ミック

#### 公務員合格者

採用種別	R3
鳥根県職員	2
鳥根県警察官	2
雲南市消防	1
合計	5

# 部活動報告

## 野球部

主将 本池 治洋

私たちは「甲子園で校歌を歌う」とを目標に今大会に挑みました。出雲農林高校、大東高校、益田翔陽高校と対戦し準決勝まで勝ち上がり、結果はベスト4でした。

3回戦で対戦した大東高校とは地元校対決ということもあり、負けられない気持ちで臨みました。試合は1点を争う接戦となりましたが勝ち、良い流れで勝ち進むことができました。決勝を懸けた浜田高校戦では、本来の力を出し切れず負けたことが悔しいです。大会を通して、私たちはたくさんの方々に応援されていることを改めて感じることができました。OBや地域の方々に差し入れを頂き、試合に足を運んでくださったことにも感謝しています。たくさんの方々の応援をありがとうございます。新チームもよろしくお願ひします。

※野球部は、来春開催の第95回記念選抜高校野球大会「21世紀杯」県推薦校に選出されました。

## 女子ソフトボール部

主将 飯塚 日向日葵

私たち三刀屋高校女子ソフトボール部は3月19日から22日に、広島県尾道市御調球場で行われた第40回全国高等学校選抜ソフトボール大会に出場しました。

私たちの相手は栃木県の矢板中央高校でした。守備ではエラーはありませんでしたが、相手の打線を抑えきれずに14点を許してしまいました。攻撃では、塁に出るも得点につながりませんでした。

でしたが、最終的に1点を返すことができませんでした。結果は1-14で敗れました。私たちの目標である全国ベスト16には届きませんでした。一人一人が自分の持っているポテンシャルを発揮し戦えたと思います。これからも目標を達成させるために日々の練習に取り組みしていきます。応援をよろしくお願ひします。

## 演劇部

部長 駿馬 里咲

ずっと目標であった全国大会への出場を果たし、開催が待ち遠しかった全国高等学校総合文化祭が終了しました。長期間にわたる日程でしたが、自ら被爆しながらも「如己愛人」の精神に徹し、平和を祈り続けた永井博士の言葉や思いを、全国の人に知ってもらいたいと願ひ、全力で取り組んだ6日間でした。このお芝居をつくっていく過程で、戦争を知らない私たちが永井先生の遺された言葉をきちんと伝えることができるのかと真剣に悩み、心から理解したいという思いで、部員全員で雲南市の永井隆記念館や広島市の広島平和記念資料館にも出かけました。そうした経緯を経て、皆が全国の舞台で自信を持って「永井隆物語」を演じられたことを本当に嬉しく思います。

また、今年の総文祭は三年ぶりの一般の観客を入れての開催でした。私たち自身、全国大会までの地区大会、県大会、中国大会は一般の観客を入れずに開催された大会であったので、観客を入れての公演はとても新鮮な気持ちで臨むことができました。様々な制約の中、大会を運営してくださった方々、支えてくれた地域の方々、応援にかけつけてくださった雲南地区同窓会のみならず、そして家族に感謝の気持ちでいっぱいです。応援ありがとうございます。

※第46回島根県高等学校演劇発表大会で、本校・分校とともに最優秀賞に輝

く快挙を遂げ、2校そろって中国大会への出場権を獲得しました。

## JRC部

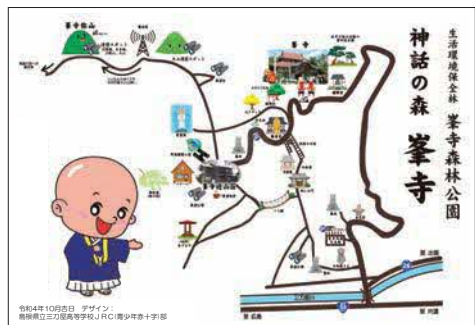
部長 長谷川 智香

8月に「全国総合文化祭2022」、11月に「全国ポランティアスピリットアワード」で、島根県代表として研究発表を行いました。研究テーマ「Original Style: 鯛鯛〜BIZの論〜 鯛の歌〜」は学校だより蒼雲やHPで紹介した内容です。活動のBeforeとAfter、を数値データで比較分析し、合言葉「気づき・考え・実行する」でのボランティアのよさを効果的に発信できました。

「コロナ禍での対面実施は入学後初めてで、雲南会からの活動奨励金のおかげで東京で充実した活動ができました。ご支援ありがとうございます。

## お知らせ

『梅でつながる魅力発信・交流プロジェクト』として、峯寺森林公園(峯寺・峯寺遊山荘・峯寺山など)を拠点に、楽しい企画をスタートしました。その中のひとつ「梅ジャム」販売も大好評で30分で完売しました。次は「看板・地図おひろめ交流イベント」を予定しています。詳細は広報しますのでぜひご参加お待ちしております！



# 編集室通信

例年に比べ三日遅いはずの梅雨入りですが、6月28日梅雨明けという速報値が流れたものの、気象情報センターを「これほど梅雨明けの時期がずれたのは初めて」と嘆かせるほど。確定値は6月28日→7月26日に訂正されるほど異常だった夏の初めも、最近朝夕すっかり涼しくなり、やっといつもの秋に返った感じがします。雲南会の皆さん、お元氣のことと存じます。

届いた会報を一目ご覧になって、まづ紙面が大きく変わったなと思われたのでは？

2頁で記事を書きましたが、雲南会では今、運営の仕方を検討し、少しずつ改善を進めています。検討を進めた結果、まづ

▼紙面の大きさをA3→B4に、頁数を6頁に

▼記事内容を、雲南会の動向や支部の動きを詳細に。また、周年期からのメッセージ、校友の活躍紹介をシリーズ物にして。加えて進路状況・部活動の活躍などを出来るだけ速報する形で…。

▼そこで発行日を、年一回・毎年6月末に、「総体報告・雲南会総会予告」(今年は暫定的に第一回推進委員会を終えたのを機に、11月末の発行)やがて、会員のご意見・ご要望欄も計画

▼そして、全会員配布が叶えられれば…と思います。

▼今回から1頁の「題字」を変更しました。これまでは、ソフトのフォントを使用していましたが、まづ、活字体から筆写体になへ

▼漢字からやわらかい雰囲気ひらがなへ  
の変更です。揮毫は、本校高18期の、書家・新日本書学院理事長の室下義富(景雲)氏です。

▼今回編集作業に当たったのは、実は「広報の充実」を検討、六月以降数回の会合を重ねてきた、次の七名です。

## 広報の充実検討グループ

- 妹尾福子(20期) — 須山哲好(22期)
- 奥井 満(23期) — 古林 茂(27期)
- 藤原重信(28期) — 室下義富(18期)
- 佐藤 茂(〃)

## 同窓会報「うんなん」

## 編集委員

## 大募集!!

雲南会では、次号からの編集委員になってくださる方を募集します。作業の日程・時間などはおよそ次の通りです。

ぜひぜひ、お仲間でも結構ですのでお考えください。

### ○作業時期・回数

↓発行が6月末日なので、5月当初から6月始めに掛けて、お集まりいただくのは2回程度

### ○作業内容

- ↓紙面内容の検討、
- ・執筆者の検討・依頼
- ・提出される原稿の紙面割り
- 〈印刷所回し〉
- ・校正 など

○編集会にご参加頂くため、雲南市内、奥出雲、飯南、出雲市内辺りの方が好都合かも。差し障りがなければ、さらに遠方の方でも一向に差し支えありません。

○わいわいがやがや、集まりが楽しくなるような編集会に参加してみませんか？

ご参加、お待ちしております。

